



# 考 動



## ◇本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果について◇

年度当初に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果分析および成果と課題について、次のようにまとめました。「家庭学習のしおり」とともに今後の学習に活用してください。

### ○結果分析

- ・国語全体の正答率は、全県比4ポイント上回り、全国比1.2ポイント上回った。
- ・数学全体の正答率は、全県比5ポイント上回り、全国比2.2ポイント上回った。
- ・英語全体の正答率は、全県比4ポイント上回り、全国比3ポイント上回った。
- ・学習状況では、「家人と学校での出来事について話をする」「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業時間以外に、普段1日2時間以上勉強する」「地域や社会



をよくするために何をすべきかを考えることがある」「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「授業で学んだことを他の学習に生かしている」などが、全国平均を5ポイント上回った。逆に、「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「学校の授業時間以外に普段1日1時間以上読書をする」「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」などが、全国平均を5ポイント下回った。

### ○成果と課題

**国語**：「書くこと」についての正答率が高い。1、2年時に「書くこと」を授業の中に多く取り入れたことで「書くこと」への抵抗を軽減し、自分の意見や根拠を明確にして書くことにつながったと考えられる。書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することに苦手意識があり、正答が伴わない。語句の使い方や語彙力不足に課題が残る。「封筒の書き方」は、宛名書きを2年時に学習済みであるが、近年、実生活の中で経験が不足しがちであるため、機会をとらえて確認する必要がある。

**数学**：数や計算、図形に関する既習事項の定着が見られる。特に、技能や知識理解を問う内容での正答率が高い。授業で実施している教え合い活動や宿題の計算プリント等が基礎能力の定着に効果的であったと考えられる。関数や資料の活用の単元の正答率が低く、文章を読み取り表現する力やグラフ・データを読み取る力の不足が見られ、情報から複数の意味や内容を読み取る力を高めることが課題としてあげられる。

**英語**：「話すこと」について、自身の夢を考えて答える問題の正答率が高い。これまでに取り組んできたプレゼンテーション活動で培った経験が生きていると考えられる。会話の続きを考えて次につなげていく問題での正答率が低く、実際のコミュニケーション力が乏しい。会話の流れに応じた言葉のバリエーションを増やすことが課題としてあげられる。文法問題の正答率は高く、知識の定着が見られるが、その知識を用いて自身の考えを表現する問題の正答率が低く、書くことへの苦手意識や語彙力の低さが伺える。

**学習状況**：毎日の「考動タイム」の実施により、学校での学習内容や学習課題を家庭での学習につなげることがスムーズになってきたと考えられる。また、教科での帯学習の導入による学びの内容等の反復学習が基礎・基本の定着につながっていると考えられる。ただし、さらに理解を深め、応用につなげることが必要な領域の習熟に向けて具体策を講じる必要がある。また、教科学習への関心、意欲、態度や規範意識の醸成はもとより、自尊感情の高揚、学校図書館をキーステーションとした読書活動の推進、生徒会活動を中心とした学級活動の活性化が課題としてあげられる。